

2012年講義スケジュール

“がん患者におけるリンパ浮腫の特徴と病態アセスメントに基づいた看護の実際”

- 概要： 1. 体液循環と浮腫・リンパ浮腫について
 2. がん治療とリンパ浮腫について
 3. リンパ浮腫の治療法を発症した患者の治療法（複合的治療およびその他の治療法）
 4. 複合的治療の理論に基づいたリンパ浮腫予防教育の考え方
 5. リンパ浮腫に関連した診療報酬制度と、診療報酬につながる具体的指導内容
 6. がん術後リンパ浮腫のリスクのある患者のアセスメント
 7. 患者の持てる力を引き出すセルフケア教育
 8. 浮腫のある進行・終末期がん患者の病態アセスメントと看護

| 時間 | 内容 |
|-------------|--|
| 9/22 (土) | 1日目 |
| 13:45-15:15 | 体液循環と浮腫・リンパ浮腫、がん治療とリンパ浮腫 |
| 15:15-15:30 | 休憩 |
| 15:30-17:00 | リンパ浮腫の治療法（複合的治療およびその他の治療法） |
| 9/23 (日) | 2日目 |
| 8:45-10:15 | 複合的治療の理論に基づいたリンパ浮腫予防教育の考え方 診療報酬制度と、診療報酬につながる具体的指導内容 |
| 10:15-10:30 | 休憩 |
| 10:30-12:00 | 術後リンパ浮腫のリスクのある患者のアセスメント 患者の持てる力を引き出すセルフケア教育 |
| 12:00-13:00 | 昼休憩 |
| 13:00-14:30 | 浮腫のある進行・終末期がん患者の病態アセスメントと看護 |

がんプロ5 大学院がん看護学合同セミナーでリンパ浮腫のケアを学びました。

平成24年9月22・23日に徳島大学で、千葉大学医学部附属病院看護部がん看護専門看護師／日本医療リンドレナージ協会認定セラピストの奥 朋子先生を講師にお迎えし、高知県立大学・岡山大学・徳島大学・広島大学・山口大学のがん高度実践看護師コース大学院生を対象とした「平成24年度がん看護学合同セミナー」が開催されました。各大学からの参加者は合計11名で、高知県立大学からは1回生5名が参加しました。

今年度は「がん患者におけるリンパ浮腫の特徴と病態アセスメントに基づいた看護の実際」をテーマに以下の概要で2日間の講義・演習が行われました。

(概要)

- ①体液循環と浮腫・リンパ浮腫について
- ②がん治療とリンパ浮腫について
- ③リンパ浮腫の治療法を発症した患者の治療法(複合的治療およびその他の治療法)
- ④複合的治療の理論に基づいたリンパ浮腫予防教育の考え方
- ⑤リンパ浮腫に関連した診療報酬制度と診療報酬につながる具体的指導内容
- ⑥がん術後リンパ浮腫のリスクのある患者のアセスメント
- ⑦患者の持てる力を引き出すセルフケア教育
- ⑧浮腫のある進行・終末期がん患者の病態アセスメントと看護

講義や演習では大学院生からの活発な質問があり、演習ではリンドレナージやバンテージ体験を通して、リンパ浮腫に対する知識を深めることができました。また夜は、大学院の学生や教員、奥先生とイタリアンレストランで食事をしながら、情報交換を行い、大学院の学生間の親睦が深められました。

《参加された院生の感想》

■今回のセミナーを通して、目の前の現象を改善したいというだけじゃなく、その現象をひきおこしている原因をアセスメントする視点をもつことがスペシャリストとして身に付けていかなければならないということを学びました。

■高度実践看護師としての知識、技術を持つことの重要性を感じた講義でした。

■他大学の学生とも交流する機会もあり、繋がりができたような気がします。これから大学間でも学生同士で情報交換を行い、自己研鑽できればと思います。

■実際にリンパマッサージを受けてみると、ほぼ圧はかかっておらずこれで本当にリンパの流れがよくなるのかと思うほどでしたが、マッサージ後はマッサージを受けた部位がすっきりと軽くなりむくみをとれたので、実際に浮腫のある人ではドレナージ効果があれば身体の水分バランスに変化をきたす危険があり、慎重に行わなければならない技術だということが身を持って体験できました。

■リンパ浮腫のケアは看護師が行うものではなく患者自身がセルフケアとして生涯にわたって継続していくことが重要だということが分かりました



奥 朋子先生



講義の様子



リンパドレナージの様子



バンテージの様子



巻かれたバンテージの確認



奥先生が行うリンパドレナージを全員が体験